

件名：令和6年能登半島地震に関する志賀原子力発電所の点検状況等に係る面談

日時：令和6年1月4日（木）17：20～19：00

場所：テレビ会議システムによる出席

出席者：

原子力規制庁長官官房総務課 事故対処室

山口室長、木原室長補佐

原子力規制部検査グループ 実用炉監視部門

菊川管理官補佐、志賀上級原子炉解析専門官、小野上級原子炉解析専門官、

宮坂原子力運転検査官、井上係長、藤岡係員

北陸電力株式会社（以下、「北陸電力」という）

東京支社 副支社長

原子力部 副部長 他2名

土木建築部 副部長

要旨：

○北陸電力から志賀原子力発電所における令和6年能登半島地震に対する施設の点検状況等に関して、資料に基づき説明があった。

○原子力規制庁から1号機起動変圧器及び2号機主変圧器の構造と油漏えいの箇所、所内の電源系統の状況、外部電源が失われた場合の使用済燃料プールの冷却機能の見通し、津波による潮位変動の状況、敷地構内の状況、余震を含めた地震による地震加速度の状況について確認を行った。

○北陸電力から資料を基に以下の回答があった。

- ・変圧器の構造と油漏えいについては、1号機の起動変圧器と2号機の主変圧器は変圧器内の油量を確認した計器が設置されているコンサベータ（油劣化防止装置）や冷却器配管の取付位置等の構造が異なっており、漏えい量が異なっている。また、各変圧器の放圧板の動作及び噴霧消火設備の動作条件も号機によって異なっている。
- ・所内の電源系統については、1号機では起動変圧器の油漏れの確認の結果、手動で代替の予備電源変圧器への切り替え、2号機では主変圧器の放圧板の動作及び噴霧消火設備の起動が確認され、自動的に予備電源変圧器への切り替えが発生した。
- ・使用済燃料プールについては、電源喪失により冷却機能が失われてもプール水の水温が100℃に達するまでに1号機では17日間、2号機では29日間と予測している。
- ・津波による潮位変動については、2号機取水槽内の海水面が通常より約3メートル上昇していたことを確認しているが、当該水位上昇は、海底トンネルの取水路を経た取水槽内での水位であり、海表面での正確な津波高さを測定しているものではない。防潮堤に船舶の入港用に波高計があるが、地震時にはデータ転送ができず、デ

一々の保存状態等を今後確認する予定。

- ・敷地構内の状況については、高圧電源車のアクセスルートに段差の発生を確認しているが、車両の通行には支障がない。
- ・地震による加速度については、志賀では地震加速度の表示・記録の機能を有する地震計を1号機原子炉建屋地下2階に設置しており、399.3ガルが観測されている。

配付資料：

- 石川県能登地方で発生した地震による志賀原子力発電所の影響について
- 志賀原子力発電所2号機 主変圧器の漏油量再評価について